

2 棚田を通じて人が広くながる農業を将来に継承したい

なかた
【中田集落協定：伊万里市】

【取組概要】

- そば打ち体験、棚田の米をつかった日本酒「すみやま」、景観利用した彼岸花で観光客を呼び込む。
- 大事なものはネットワーク。企業ボランティアと連携し、農業生産活動の維持を目指す。



地域の現状

当地区は、伊万里市の南西部、国見山系に位置する棚田地域。平成12年度から協定に基づく活動を実施。秋の彼岸花や棚田オーナー制度により、地域内外の交流を図る。

一方で、54歳以下の構成員が7名という中、担い手農家の確保が今後の課題。

協定の概要(R5)

1. 取組面積 25.5ha
(田25.5ha、畑1ha)
2. 交付金額 811万円
個人配分 26%
共同取組 74%
3. 協定参加者 43人
農業者 43人



交付金はこんなことに活用しています！

農道・農地整備、鳥獣被害対策費、研修費等

取組経緯

ステップ1 取り組み開始のきっかけ、開始時の苦労点

当地区は、平成12年度以前は小さな田んぼが連なり、農道も崩れて農作業に不安があったため、棚田地域等緊急保全対策事業において、棚田の整備を実施。これをきっかけに、「すみやま棚田を守る会」を結成し、「そば打ち体験」「棚田の米をつかった日本酒すみやま」、「景観を利用した彼岸花」で観光客を呼び込む。

ステップ2 創意工夫した点

県の棚田ボランティア制度を活用し、伊万里ケーブルテレビジョン(株)の支援をうけ、イベント等の情報発信や、稲刈りの協力をいただいている。

近年、鳥獣被害が増加しているため、交付金を活用し、ワイヤーメッシュを整備するとともに、構成員に狩猟免許を取得してもらい、猟友会に参加するなどそれぞれのネットワークを大事にする。

ステップ3 取り組みによる変化と今後の課題

イベントの効果は、市内外から関心を持っていただけること。観光客の増加が構成員の結束力を増し、農用地の維持管理を行う力につながる。今後は棚田特有の険しい法面の管理が高齢化が進む中での最大の課題です。

【取り組みによる効果】

イベントや交付金の活用方法等などについて話し合いが増えた。将来の農用地の活用方法についての議論が活発になった。

【協定代表者から一言】

棚田を通じて、人の繋がりが広がるのが、うれしいです。



秋の棚田と彼岸花



棚田ボランティア